

2021 年度 シラバス 中学 1 年生
目次

宗教	2
国語	4
社会	6
数学 1 代数	8
数学 1 幾何	10
理科第 1 分野	12
理科第 2 分野	14
英語	16
保健体育	18
音楽	21
美術	23
技術	25
家庭	27
探究創造	29

1 科目のねらい

創立者より賜った「幸福の科学学園生徒心得」を中心に、高貴なる義務を帯びた学園生として、身につけるべき「しつけ」の定着を目指します。具体的には、「主エル・カンターレについて」「正しき心の探究」「四正道の基本」「自制心」などを学習し、「信仰生活」「勉強」「規則正しい生活（寮生活への適応）」の習慣化に努めることです。日々、仏神の目を意識して、学園生活の基盤を築いていきましょう。

2 学習内容と学び方

- ① 知識の学習：「しつけ」の基になる仏法真理をきちんと学び、要点は暗記していきます。
- ② 実修による定着：思慧や発表、ロールプレイ、ディスカッション、日々の実践を通して、知識を経験化し、智慧として定着させていきます。
- ③ アウトプット：授業での学びをノートにまとめるなど、知識と経験を統合する方向のアウトプットをすることで、自分の考えをまとめ、実践に通じる智慧を磨いていきます。

以上の方法によって、発言力やダイレクト・コミュニケーション力、自らの心を素直に見つめる力をつけていきます。

3 学期ごとの主な学習内容

- 1 学期：「信仰生活の基本（正しき心の探究、お祈りの仕方、他）」
「生徒心得（自制心、自助努力の精神、他）」「自己変革の基本」
- 2 学期：「仏の子としての生き方」「勉強の仕方」「根本經典の重要性」
- 3 学期：「人間を幸福にする四つの原理」「教団史」

4 使用教材と授業の進め方

教材：「幸福の科学学園生徒心得」、經典（「若き日のエル・カンターレ」「悪魔の嫌うこと」「真のエリートを目指して」「夢は叶う」「世界に羽ばたく大鷲を目指して」など）や御法話（『善悪を知る心』『自制心』『信仰と天才』『勉強と心の修行』『真のエリートを目指して』など）、仏法真理アニメ、配布プリントを中心とします。授業の進め方：教師は「レクチャー（講師）」のみならず、同時に「ファシリテーター（気づきの促進者）」です。参加型の授業を行っていきますので、問題意識と主体性を持つようにしましょう。

5 学習上の留意点

講義を聞くだけの受け身の姿勢にならないように、自ら参加しようという意欲を持って授業に臨みましょう。授業やディスカッションでは積極的に手を上げて発言し、他の人の発言にも耳を傾け、それに対する意見も述べましょう。

また、ノート等に考えをまとめる際には、受け売りの意見だけでなく、自分の考えを深める努力をしてください。

6 テストや評価の方法

学期末の定期テストのほかに、仏法真理の知識が「智慧」になっているかを見るため、課題への取り組み等も重視します。また、寮や学園での生活のみならず、校外での伝道活動やボランティア活動への参加など、身についた仏法真理知識を実践して智慧に転化するための活動にも積極的に取り組んでください。

授 業 の 計 画

科目名 仏法真理 基礎Ⅰ

学 期	月	主なテーマ	主な内容	副教材・行事・授業展開・テスト	着 眼 点
第 1 学 期	4	信仰の基礎① 学園生としての自覚(1) 『生徒心得』①②	・主エル・カンターレについて、三宝帰依 ・両親への感謝と報恩①(基礎学習) ・礼儀、あいさつ、言葉の調律	『真のエリートを目指して』 『信仰と天才』『自制心』 ※配布プリントを中心に授業を展開します。 『祈願文①』	信仰生活の基礎固め、学園生としての基本を養う 共同生活のルール 信仰生活の定着 長所の発見
	5	信仰の基礎② 学園生としての自覚(2) 『生徒心得』③④	・基本経文の学習①、お祈りの仕方 ・両親への感謝と報恩②(実践からの学び) ・因果の理法、正直さ		
		仏の子としての生き方①	・嘘をつかない、努力、勤勉 ・明るく積極的に生きる	中間考査 「悪魔の嫌うこと」	仏神に愛される生き方を知る
	6	最新御法話論点学習 『生徒心得』⑤⑥⑦	・劣等感と嫉妬心 ・ゴールデン・ルール	『善悪を知る心』	仏神の善悪基準を知る
		仏の子としての生き方②	・マイナス思考からの脱却 ・参究の基本	心の指針「逃げるな」	自分の心の傾向性を知り、乗り越える力を磨く
	7	信仰の基礎③	・基本経文の学習②	『エル・カンターレへの祈り』 期末考査	
第 2 学 期	9	仏の子としての生き方③	・自制心	※配布プリントを中心に授業を展開します	主の念いを掴む
	10	仏の子としての生き方④	・やる気の自家発電	御法話「明るく生きよう」 中間考査	御巡錫の意義を学ぶ 自助努力の大切さを学ぶ
	11	仏法真理に学ぶ「勉強の仕方」 『正心法語』の功德	・向学心 ・知的正直さ ・根本経典の理解を深める ・五種法師行、正心法語の全編読誦	心の指針「勉強の仕方」 『勉強と心の修行』 「はじめての信仰生活」	信仰生活の重要性を知る①
	12	仏弟子の基本①② 信仰の基礎③	・修法「エル・カンターレ・ファイト」「エル・カンターレ・ヒーリング」 「悪霊撃退の祈り」実修、瞑想の仕方 ・楽曲について	「仏弟子の反省」 四無量心、『祈願文①』 楽曲各種 期末考査	信仰生活の重要性を知る②
	幸福の科学の歴史①	・大祭・記念日について	楽曲各種 期末考査 教団史	教団の歩みを学ぶ	
第 3 学 期	1	新年の誓いを立てる	・志や夢をえがく ・四弘誓願	最新御法話(戦略経典講義、他)	志を立てる 努力する幸福を知る
	2	人間を幸福にする四つの原理	①四つの原理を学ぶ ②適切な人間関係を構築する	「幸福の法」第3・4・5章	課題を見出し、解決の方法を学び、実践する
	3	幸福の科学の歴史②	幸福の科学の歴史を学ぶ	学年末考査 教団史、30周年記念映像	教団の歩みを学ぶ②

※授業内容やスケジュールは、生徒の日常生活の様子に合わせて、変更することがあります。

国語	国語
----	----

中学1年生対象

週5時間(現代文：4時間、古典：1時間)

担当：山路真彩

1 科目のねらい

国語の授業は、社会に有為で創造力ある言葉の使い手を養成するために行われます。中1の1年間は、どのような力をつける時期なのでしょうか。皆さんは、小学校時代に基礎力を築いてきたはずです。高校へ進学すると、高校用教材を用いた学習が始まります。これは、「創造力ある教養人となるための本格的な教材を扱う」ということです。ということは、中1～3の3年間は、「基礎学力から学問への橋渡し期間」ということになります。

国際社会で活躍する人材には、それにふさわしい語彙があります。知識人といわれるレベルの語彙力・論理力と、今の自分とのレベルの差を意識し、内面も言語技術も磨いた高校生となっていることを目指します。

2 学習内容と学び方

中1の国語では、文章を正しく読み進める力をつけるために『論理エンジン』という教材を用いて学習を進めていきます。また、小説と論説文、詩歌なども扱っていきます。週に1時間、古典の授業を行います。過去の偉人の思想・言葉に直接触れることで、古典への関心を深めていきます。現代語との違いに注目しながら、一つ一つ丁寧に学んでいくことが大切です。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「伝え合う言葉1」教育出版 「論理エンジン OS1」

「論理エンジン OS2」水王舎 「中学書写1」教育出版

副教材：「完全準拠 中学国語漢字ノート」教育出版

「国語便覧」浜島書店 「中学実力練成αスタンダード 国語1年」文理

授業は、「論理エンジン」と「伝え合う言葉1」を併用します。「論理エンジン」では、文章を読み解く為の基礎力を培います。「伝え合う言葉1」では、小説・評論・詩歌など様々な作品を読み進めていきます。要点を把握し、論の展開の仕方を見抜く力をつけることに重点を置き、「根拠を示しつつ指摘する」という練習を積み重ねます。発表の機会が数多くありますが、教室は安心して間違える場です。臆せず発言することが質の良い学習環境作りにつながることを忘れず、主体的に取り組んでください。

4 学習上の留意点

国語の高得点者には、2つの特徴があります。

1つめは、言語体験が豊かなことです。質の良い本に多くふれる等、一人一人の努力目標としましょう。2つめは、文章の幹の部分と論の展開のとらえ方を知っているということです。これを授業で扱っていきますので、次の三点の準備をして臨んでください。①教材を読む ②漢字を読めるようにする ③言葉の意味がわかる。なお、漢字・語句の小テストを多用しますので、こまめに基礎知識を習得していきましょう。

書写は、さまざまな角度から文字に対する関心を深め、文字を書くことへの興味や関心を深めていきましょう。

5 テストや評価の方法

定期考査・課題考査・小テストの得点、及び課題の取り組み、レポートの内容書写は、作品・授業態度により判断します。

授 業 の 計 画

科目名 国語

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	詩 歌 小 説 文 法	「ふしぎ」 「桜蝶」 「文の成分」	中 間・ 期 末 考 査	☆通年：語彙の習得 [詩歌] 優れた詩歌にふれ、言葉の力を体感する。 [小説] 授業で行う「学問としての読み方」を知り、分析の方法を習得する。 [説明文] 事実と意見を読み分け、要旨を捉える力をつける。 [表現] 文字を手段とした、様々な表現効果を学ぶ。
	5 6 7	説 明 文 文 法 小 説	「笑顔という魔法」 「言葉の単位」 「ベンチ」		
	4 ～ 7	書 写	楷 書		[書写] 筆順の原則を理解して、字形を整えて書くことを学ぶ。
第 2 学 期	8 9 10 11 12	論 理 エ ン ジ ン 詩 歌 小 説 文 法 説 明 文	OS 1 「河童と蛙」 「オツベルと象」 「単語のいろいろ」 「森には魔法つかいがある」	中 間・ 期 末 考 査	[小説] 1学期に学んだ読解力の更なる定着を図る。 [説明文] 次の2点を重点的に学ぶ。 ① 中心部のとらえ方 ② 論の展開の仕方（レポート作成の際に活用できるように）
	8 ～ 12	古 典 書 写	「竹取物語」 「笛に入った桃太郎」 「古典の扉を開く」 「故事成語」 「蜘蛛の糸」 漢字と仮名の調和 行書		
第 3 学 期	1 2 3	論 理 エ ン ジ ン 小 説 説 明 文	OS 2 「少年の日の思い出」 「言葉がつなぐ世界遺産」	学 年 末 考 査	[小説] 語彙力・読解力を更に磨く。 [説明文] 2学期に学んだ点をさらに深め、基本をおさえる。
	1 ～ 3	古 典 書 写	百人一首 「物語の始まり」 「蓬莱の玉の枝と偽りの苦心談」 生活の中の書写 学習のまとめ		

社会	歴史
----	----

中学1年生対象

週4時間

担当：木村靖法

1 科目のねらい

我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を正しい歴史観に立って学び、これからの未来にどのような新たな歴史を創っていけばよいかという点にまで探究を深めていきます。また、歴史上の偉人たちの業績をその生き様、志から深く学び、時代や地域との関連において理解し、尊重する態度を養います。歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし、他民族の文化、生活などに関心を持ち、国際協調の精神を養いながら、民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な資質を身につけます。

2 学習内容と学び方

日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に学習します。単元ごとの自作学習プリントを中心に、歴史事象を4W1H（いつ、どこで、だれが、なぜ、どのようにして）でまとめます。事実認識をした後、その授業のコンセプトとなる学習問題を設定し、みんなで話し合い、調べ合い、時にはディベート形式を取り入れながら問題解決学習を進めていきます。問題解決しながら、さらに疑問点や歴史的意義を浮き彫りにして、自分の興味・関心のある領域を広げていきましょう。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「新しい歴史教科書」育鵬社

副教材：アドバンス「歴史資料」帝国書院、徹底演習テキスト中学歴史

授業の進め方は、一斉授業の場合はパソコンによるプレゼン方法で進め、歴史事象を一つ一つ確認します。そして演習問題を繰り返して解きながら内容の理解を深めます。また、偉人たちの業績や生き様、その志など、時代背景を構造的に把握しながら、興味関心を持って学習できるよう、豊富な資料と体験談、VTR教材を工夫しながら、楽しくおもしろい授業を進めてまいります。

4 学習上の留意点

社会科は問題解決学習です。まず初めに教科書・資料集・参考文献を「一人調べ」しましょう。ノートに自分が調べたことをまとめ、「自分流参考書」を作り上げます。次に疑問点をみんなで探究します。これが歴史的意義となり、学習問題になります。この学習問題を予想・検証しながら、自分が調べた内容と比較検討していきます。人物画やプレゼンソフトでわかりやすく板書構造を組み立てていきますから、提供する自作学習プリントの空欄を間違いなく埋め、それを繰り返し憶えることが高得点につながります。

5 テストや評価の方法

授業中の取り組み（挙手・発表意欲等）、小テスト・定期テストなど総合的に評価します。

授 業 の 計 画

科目名 社会

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	第 1 章 歴史の流れ	計画を立てて調べよう まとめて発表しよう。	中間 考査 期 末 考査	<ul style="list-style-type: none"> ・関心ある主題を設定し、まとめる作業的な活動を通して、歴史を学ぶ意欲を高める。 ・仏法真理の中の「時間論」を学ぶ。 ・人類の出現、古代文明の起こり、国家の形成、及び日本の成り立ちから天皇・貴族の政治、武士の起こりへと展開されていく過程を理解する。 ・ある一定の時期に一定の地域を中心に異常にレベルの高い人々が住んでいたことに注目する。 ・武家社会の展開と東アジアとのかかわり、諸産業の発達、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色等について考える。 ・仏の意図、高級霊たちの計画によって、日本に降りた光の天使たちの姿を検証する。
	5	第 2 章 古代までの日本	文明のおこりと日本の成り立ち 古代国家の歩みと東アジア世界		
	6	第 3 章 中世の日本	武士の台頭と鎌倉幕府		
	7		東アジア世界とのかかわりと社会の変動		
第 2 学 期	8	第 4 章 近世の日本	ヨーロッパ人との出会いと 全国統一	中間 考査 期 末 考査	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱とヨーロッパ人の来航及びその影響、江戸幕府の成立と鎖国政策について理解すると共に、社会の変動や欧米諸国の接近に伴う新しい学問・思想及び文化の動きについて気づく。 ・文化については、担い手・その特色から天上界から大いなる御光が注がれていることに気づく。 ・市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出を背景に、幕末の動乱期に活躍した光の天使たちの情熱を明治維新と併せて理解する。 ・近代化を進めた我が国の国際的地位の向上、近代産業の発達を通して国民生活の変化について気づくと共に、当時日露戦争に反対した内村鑑三の信仰と偉大な精神を学ぶ。
	9		江戸幕府の成立と鎖国 産業の発達と幕府政治の動き		
	10	第 5 章 開国と近代日本の歩み	欧米の進出と日本の開国 明治維新		
	11		日清・日露戦争と近代産業		
第 3 学 期	12				
	1	第 6 章 二度の世界大戦と日本	第一次世界大戦とアジア・日本 世界恐慌と日本の中国侵略 第二次世界大戦とアジア	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の国際情勢と国民の政治的自覚、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの政治・外交の動きを理解し、戦時下の国民生活に着目する。 ・「繁栄への道」の学び、太平洋戦争の霊的眞実を深く探求し、日中韓の眞実のあるべき姿を検証する。 ・我が国の民主化と再建、高度経済成長期以降の急速な発展に伴う国民生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて気づく。 ・歴史のまとめとして、地球的仏法眞理がここ日本で完結していることを理解する。
	2				
3	第 7 章 現代の日本と世界	日本の民主化と国際 社会への復帰 国際社会と日本			

1 この科目のねらい

中学では、算数から数学へと名前が変わり、言葉の意味や論理を正確に扱えるように、取り組み方が変わってきます。数学 1 代数では、主に計算を中心とする分野を学びますが、小学校で扱った内容を充実させるだけでなく、文字の計算や関数など、新しい考え方を学ぶことを通して、感覚だけに頼らず論理的に判断し、理性的に考えを進めていく力を養います。学問としての数学に触れるとともに、自学自習の姿勢を身につけ、徹底した自己鍛錬によってしっかりとした基礎学力を築き上げることがここでのねらいです。

2 学習内容と学び方

1 年の最初は、既に知っている算数をベースにしなが、数学を基礎づける計算の法則を学びます。これは、今後すべての基礎になるので、理解するだけでなく徹底反復により、早く正確な計算ができるようにしてください。特に算数が苦手だった人は、挽回のチャンスなので得意な人の 3 倍は練習するつもりで取り組みましょう。文字の計算の後には、いよいよ方程式を学びます。計算においては、どんなルールに基づいて計算しているか意識できるようにしましょう。そのあと文章題に取り組み、中学入試に出てきたような問題が簡単に解けてしまう代数的方法を学びます。次に比例・反比例、1 次関数を式とグラフの両面から学びグラフと関数の考え方を学びます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「体系数学 1 代数編」（数研出版）ほか

問題集：「体系問題集 数学 1 代数編 標準」（数研出版）ほか

授業の前には、教科書や参考書に目を通して学習内容をつかんでおきましょう。理解しにくい部分が見つかった場合は、授業でよく説明を聞き、復習したり夜学習で質問したりしてください。毎時間宿題があります。また、毎週確認テストがあります。

4 学習上の留意点

授業での取り組みが不十分なところはそのままにせず、自主学習でも取り組んでください。宿題はその時点で必要な課題を出すので、必ず取り組み、提出を忘れないようにしましょう。クラスは習熟度別に編成されます。クラスによってマスターしてほしい範囲が決まっています。その範囲については、早めにマスターして、その上を目指しましょう。問題は解けるだけでなく、理解することが大切です。答えは出せるが、意味がよくわからないという部分も、わかるまで取り組むようにしましょう。また、細切れ時間を利用した、毎日の計算練習は非常に重要であり、正確さとスピードにおいて常に向上することを目指して、主体的に取り組んでください。

5 テストや評価の方法

定期考査と実力テスト両方を評価の対象とするので、定期考査の範囲でないところも、自主的に復習しておいてください。授業への取り組み姿勢や宿題・課題の提出状況は、平常点に含めて評価します。

授 業 の 計 画

科目名 数学 代数

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点		
第 1 学 期	4	正の数・負の数	正の数負の数 加法・減法 乗法と除法 四則の混じった計算	中間 考査	数学の基礎となる計算法則を身につける。 四則演算における符号の関係を理解する。		
	5		式 の 計 算			文字式 多項式の計算 単公式の乗法と除法 式の値 文字式の利用	等式の定義とそれらの計算規則を学ぶ。 等式の性質を学び方程式の解法を理解する。 連立方程式の解き方を理解する。 さらに連立方程式の応用問題にも取り組む。
	6	方 程 式				方程式とその解 1次方程式の解き方 1次方程式の利用	
	7			連立方程式 連立方程式の利用	中間 考査	連立方程式の考え方と解法を学ぶ。 文章題から連立方程式を立てる力を身につける。 不等式の性質から、不等式の解法へ理解を進める。連立不等式の解法を学ぶ。	
	8	不 等 式					
	9			1次関数	変化と関数 比例とそのグラフ 反比例とそのグラフ 比例・反比例の利用	関数の考え方と座標による表現 比例反比例の考え方を関数の式によって理解する。	
	10		1次関数の意味を知る。 1次関数のグラフのかき方を学ぶ。				
第 3 学 期	11	1次関数	1次関数とそのグラフ 1次関数と方程式	学 年 末 考 査	1次関数と方程式の関係を知り、代数と幾何の融合部分を知る。		
	12		1次関数の利用				
	1		1次関数とそのグラフ 1次関数と方程式				

注 クラスにより進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。

1 この科目のねらい

中学 1 年の数学 1 幾何では、図形の性質を中心として学びます。直感だけでなく、論理を用いて直感をも超えた事実を理解する方法をじっくりと学んでいきます。論理を積み重ねて事実を証明していくことを論証と言いますが、間違った方法さえとらなければ、自由に考えを進めていく創造性がそこにはあります。1 つの山の頂上に登る方法がいくつもあるように、1 つの事実に到達する方法は何通りもあるのが普通です。ここでは直感を養う一方で、証明の考え方を理解し、その論理の使い方を学ぶことが大きなねらいとなります。いろいろ図を描いたりして試行錯誤しながら、積極的に論理を展開していく力をここで身につけてください。ここで鍛えた能力は、数学だけでなく、探究創造科を始めとして国語や社会などいろいろな教科で役に立つことになるでしょう。

2 学習内容と学び方

最初の平面図形の基礎では、点の集合として図形を理解するところから始めます。数学としての図形の見方をしっかりと身につけましょう。移動や作図では、具体的なイメージを思い浮かべながら実際に図を描いてみるのが大切です。それを重ねることにより、描かなくても考えられる力に発展させることができます。空間と図形では、立体的な図形の理解を深めます。実際の立体で確かめたり、見取り図で考えを進めたりと、具体的な直観と論理的な推理の両方を結びつけながら学びましょう。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「体系数学 1 幾何編」（数研出版）ほか

問題集：「体系問題集 数学 1 幾何編 標準」（数研出版）ほか

授業の前には、教科書や参考書に目を通して学習内容をつかんでおきましょう。理解しにくい部分が見つかった場合は、授業でよく説明を聞き、復習したり夜学習で質問したりしてください。毎時間宿題があります。また、毎週確認テストがあります。

4 学習上の留意点

角と平行線のあたりから「証明」といわれる数学の中心的考え方がでてくるので、「なぜそうなるのか」という理由をきちんと理解して、口頭でも説明できるよう心がけてください。習熟度クラスによって多少、学習内容が変わってきますが、重要事項については、十分時間をかけてわかるまで取り組みましょう。図形の証明では、わからないまま次に進むことはできません。どうしてもわからないときは、先生に聞いて確認してください。証明は丸ごと覚える必要はありません。証明の流れとポイントをつかみましょう。またいい加減な図では正しい理解ができないので、正確な図を描いて考えるようにしてください。できる人はどんどん問題集を進めましょう。

5 テストや評価の方法

定期考査と実力テスト両方を評価の対象とするので、定期考査の範囲でないところも、自主的に復習しておいてください。授業への取り組み姿勢や宿題・課題の提出状況は、平常点に含めて評価します。

授 業 の 計 画

科目名 数学 幾何

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	平面図形	平面図形の基礎 図形の移動 作図 面積と長さ	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形が点の集合であることを理解する。 ・合同などを記号で表す方法を学ぶ。 ・基本的作図の方法を合同と結びつけて理解する。
	5				
	6				
	7	空間図形	いろいろな立体 空間における平面と直線	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・空間的直感をつかむ。 ・空間図形の基本性質を理解する。
第 2 学 期	8	図形の性質 と合同	立体のいろいろな見方 立体の表面積と体積 平行線と角 多角形の内角と外角 三角形の合同 証明	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における平行・垂直等を論理的に理解する方法を学ぶ。 ・見取り図、平面・立面・側面図を理解する。
	9				
	10			期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・平面や直線の移動による立体形成の原理を理解し、全席や体積を求める求積の技術を学ぶ。 ・平面における平行線の性質、多角形の性質を学び、さらに、図形問題の証明を通して、論理的体系とはなにかを学ぶ。
	11				
12					
第 3 学 期	1	三角形と四 角形	二等辺三角形 直角三角形の合同 平行四辺形 平行線と面積 三角形の辺と角	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形、直角三角形の性質を学ぶ。 ・平面図形の基本性質から、論理によって三角形・四角形の性質が体系的に導かれることを理解する。
	2				
	3				

注 クラスにより進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。

理科 第1分野

中学1年生対象

週2時間（1分野：2時間 2分野：2時間）

担当：笹尾謙吾（第1分野）

※1分野：物理、化学

※2分野：生物、地学

1 科目のねらい

身の回りを見渡すと、コップやお椀、紙や消しゴムなど様々な物体が目に入ります。「これはどんな物質からできているんだろう？」「どうやってつくったんだろう？」と思ったことはありませんか。

たまたま光った稲妻を見たとき、「どうしてジグザグに進むんだろう？」「雷が落ちるとなんであんなすごい音がするんだろう？」と思ったことはありませんか。

虹がでたとき、「どうして七色に見えるんだろう？」「どうして弧を描くんだろう？」と思ったことはありませんか。

このような素朴な問いが、科学的興味関心のはじまりであり、科学の始まりです。その問いを忘れてしまわずに、答えを探してみようと行動にうつしたとき、あなたはすでに科学者になったのです。これを科学的探究といいます。理科はこの「探究心」を育てる科目です。

科学的探究には、物事を筋道立てて考える力が必要です。鋭い観察力も必要です。実験や観察、観測を計画する能力も必要です。

授業では、科学的探究のために必要な観察力、実験などの計画能力、仲間との協調力などを養いながら、自然への深い理解力を培っていくことをねらいとします。

2 学習内容と学び方

教科書に沿い「光・音・力による現象」や「身の回りの現象や物質」（次ページ参照）を題材にして、発展的な内容を織り交ぜながら学習していきます。自らの興味関心を大切にし、授業とその復習を大切にしてください。問題演習などを通して、知識の整理と正しく理解できているかの確認をするようにしましょう。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「未来へひろがるサイエンス」啓林館

副教材：「中学の理科」教育開発出版

「カラーブック理科資料」東京法令

授業には、一人ひとりに積極的に参加してもらいます。自習課題、問題演習などを通じ、自ら調べ、自ら考え、問題解決をはかる習慣を身につけていきます。

4 学習上の留意点

教科書や本に取り上げられている内容は、誰かが発見し、注目し、関心をもち、重要だと思った内容ばかりです。たとえ、自分にはあまり関心のない事柄であったとしても、興味をもって観察や研究をした人がいたということを忘れてはいけません。なぜその人たちはそれらを重要だと感じたのだろうか。こうした視点をもつと、今までは興味をもてなかった分野にも関心を向けていくことができます。

授業で扱わないテーマや現象、法則について、興味や関心が湧いたら、是非ともその気持ちを大切に育ててほしいと思います。遠慮なく相談に来てください。

5 テスト・課題と評価など

定期考査などを実施し、提出課題、学習態度など加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 理科1分野

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点	
第 1 学 期	4	エネルギー	1 光による現象	中間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・光の直進性や反射や屈折の規則性を学ぼう 	
	5		2 音による現象			<ul style="list-style-type: none"> ・音の正体と伝わり方を学ぼう
	6		3 力による現象	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・力とは何か、力の表し方を学ぼう ・力と圧力の関係を学ぼう ・空気や水の重さから圧力を生じるしくみを理解しよう 	
	7					
第 2 学 期	8	エネルギー	3 力による現象	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・物質による性質の違いを学ぼう 	
	9					<ul style="list-style-type: none"> ・気体の製法と性質を学ぼう
	10	物質	1 いろいろな物質とその性質	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の溶解について学ぼう ・溶解度の違いと再結晶について ・水溶液の液性を学ぼう 	
	11		2 いろいろな気体とその性質			
12	3 水溶液の性質					
第 3 学 期	1	物質	4 物質のすがたとその変化	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・純物質の状態変化を学ぼう ・混合物の状態変化はどうなるか ・混合物を分離するには 	
	2					
	3					

1 科目のねらい

身の回りを見渡すと、コップやお椀、紙や消しゴムなど様々な物体が目に入ります。「これはどんな物質からできているんだろう？」「どうやってつくったんだろう？」と思ったことはありませんか。

小枝にさえずる小鳥たちを見て、「夜はどこで寝ているんだろう？」「いくつ卵を産むんだろう？」「子育てはいつするんだろう？」「何を食べているんだろう？」と思ったことはありませんか。

たまたま光った稲妻を見たとき、「どうしてジグザグに進むんだろう？」「雷が落ちるとなんであんなすごい音がするんだろう？」と思ったことはありませんか。

虹がでたとき、「どうして七色に見えるんだろう？」「どうして弧を描くんだろう？」と思ったことはありませんか。

このような素朴な問いが、科学的興味関心のはじまりであり、科学の始まりです。その問いを忘れてしまわずに、答えを探してみようと行動にうつしたとき、あなたはすでに科学者になったのです。これを科学的探究といいます。

科学的探究には、物事を筋道立てて考える力が必要です。鋭い観察力も必要です。実験や観察、観測を計画する能力も必要です。

授業では、科学的探究のために必要な観察力、実験などの計画能力、仲間との協調力などを養いながら、自然への深い理解力を培っていくことをねらいとします。

2 学習内容と学び方

だいたい教科書の順番に沿って、植物、身の回りの現象や物質、火山など（次ページ参照）を題材にして、発展的な内容まで踏み込んで学習していきます。自らの興味関心を大切にし、授業とその復習を大切にしてください。問題演習などを通して、知識の整理と正しく理解できているかの確認をするようにしましょう。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「未来へひろがる サイエンス」啓林館

副教材：「中学の理科」教育開発出版

「カラーブック理科資料」東京法令

授業には、一人ひとりに積極的に参加してもらいます。自習課題、問題演習などを通じ、自ら調べ、自ら考え、問題解決をはかる習慣を身につけていきます。

4 学習上の留意点

教科書や本に取り上げられている内容は、誰かが発見し、注目し、関心をもち、重要だと思った内容ばかりです。たとえ、自分に関心のない事柄であったとしても、興味をもって観察や研究をした人がいたということを忘れてはいけません。なぜその人たちはそれらを重要だと感じたのだろうか。こうした視点をもつと、興味のもてない分野に関心を向けていくことができます。

授業で扱わないテーマや現象、法則について、興味や関心が湧いたら、是非ともそれも大切に育ててほしいと思います。遠慮なく相談に来てください。

5 テスト・課題と評価など

定期考査などを実施し、提出課題、学習態度など加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 理科2分野

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第1学期	4	植物のくらしとなかま	<ul style="list-style-type: none"> ・生物とはどんなものか ・顕微鏡下の小さな生物たち 	中間 考査	<ul style="list-style-type: none"> ・動物と植物の違い、植物という生き方を考える。 ・肉眼では見えない世界にも多数の生物がいることを知る。 ・植物との違いを考える。 ・視点が変われば分類の仕方も変わることを知る。 ・生活様式の違いによる特徴の違い知り適応を考える。
	5	動物の生活と生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の植物 ・動物の特徴 ・動物の分類 		
第1学期	6	生きるために	<ul style="list-style-type: none"> ・肉食動物 ・草食動物 	期 末 考 査	
	7	4動物のなかま ひろがる動物の世界～未知の動物をさがす～	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類→両生類→ハ虫類→鳥類 ・セキツイ動物 ・無セキツイ動物 		
第2学期	8	4植物のなかまわけ	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の生物の誕生 ・藻類、コケ・シダ植物 ・種子植物 ・砂漠の植物・水辺の植物 ・植物の分類 	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・藻類→コケ・シダ植物→裸子植物→被子植物という、地球で栄えた順序で植物のなかまを学ぶ。 ・地層のでき方を考える。
	10	活きている地球・地球の内部の謎にせまる	<ul style="list-style-type: none"> ・地層のでき方 ・地層の歴史を探る ・世界の大山脈・海嶺・海溝 ・世界の地震・火山 ・火山岩と深成岩 		
	12	自然の恵みと火山災害・地震災害 3大地は語る 2大地が火をふく	<ul style="list-style-type: none"> ・地層のでき方 ・地層の歴史を探る ・世界の大山脈・海嶺・海溝 ・世界の地震・火山 ・火山岩と深成岩 	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・地殻の変動がプレートの移動によってもたらされていることを知る。 ・火成岩のでき方を学ぶ。 ・岩石から読み取れる地形の変化や環境の変化を知る。
第3学期	1	1大地がゆれる	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のメカニズム ・地震の揺れと大きさ ・地震波の伝わり方 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のメカニズム・地震の伝わり方を知り、震源の求め方を知る。地震予知や防災について考える。
	2				
	3				

英語	英語
----	----

中学1年生対象

週5.5時間

担当：諸岡孝、石川ひかり、小田志穂、山田智菜

1 科目のねらい

英語を学ぶことは、自己の世界の、自分の世界のチャンネルを増やすことにつながります。英語の書籍やニュースによって情報を集めることができるにとどまらず、別の言語回路や文化を身につけることから、新たな発想の源泉につながっていきます。

そういう豊かな生き方につながる外国語学習です。まず、中学1年生では、英語を好きになることが第1段階となります。

2 学習内容と学び方

教科書を中心とした授業では、中学1年の教科書を用いて学習します。担当の先生の指示に従って、予習、復習、課題をしっかりとこなすように努めてください。

TTの時間では、外国人講師の先生と共に、会話練習をしたり、歌や映画を活用した表現を練習したりといった活動を行います。英検対策も織り込んでいきます。さらに、文法の時間を設け、文法力養成のための問題集に取り組んでいきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「New Crown 1」（三省堂）

副教材：「中学必修テキスト英語」（日本教材出版）

「新中学問題集 英語1年」（教育開発出版）

（以下、幸福の科学出版）サクセス No.1「中学英単熟語集 基本編」

サクセス No.1「中1英文法入門講義」・同付属ワークブック

英語の授業は週5.5時間あります。教科書を中心として総合的な英語力を養成しながら、問題集を段階的に使い、基礎の英文法から、応用まで、段階的に力を伸ばしていきます。

4 学習上の留意点

英語が伸びる秘訣は、単語を覚え、文法を学び、教科書を暗唱できるほど音読していくことです。それを繰り返していくことで、英語を五感で体得することができます。英語には実技科目としてのトレーニングの側面があることを忘れないで学習してください。

毎回の授業では、「わかる努力」「身につける努力」を惜しまないことが大切です。授業での活動、その予習・復習をしっかりとやり、基礎をしっかりと身につけてください。

また、長期の休暇期間は、映画を使って英語を学ぶことも勧めます。日本語の字幕を見ながら内容を理解する。次に字幕なしで、音に耳を傾ける。あとは、英語字幕を読んだりして、スピードについていく。こうして、生きた英語を習得する機会を自分で作ってみてください。英語が好きになったとき、そのとき、あなたは、未来をひらくカギを手にしたことになるのです。

5 テストや評価の方法

定期テストが年5回、実施されます。定期テストの点数と、平常点（授業への取り組み、小テストへの取り組み、宿題の提出状況等）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 英語（教科書）

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	New Crown English 1	I am.../ You are... Are you~? I am not~.	中間 考査	1 人称と 2 人称の主語と be動詞 1 人称と 2 人称の主語と一般動詞 一般動詞の否定文 疑問詞のある文
	5	Lesson 1	I play... /Do you play...? I don't play~.		
	6	Lesson 2	I can... / I cannot.../ Can you ?	期 末 考 査	canを用いた表現 canを用いた疑問文・否定文 3 人称の主語と be動詞 疑問詞のある文 複数名詞
7	Lesson 3	This is... / Is that...? This is not~. What is this? I like him. Who is ~.?			
第 2 学 期	8	Lesson 4	Miki plays / Miki does not	中間 考査	一般動詞の否定文 3 単現の使い方 3 人称の主語と be動詞 現在進行形/ 否定形/ 疑問形
	9		Does Miki play ? Play... / Don't... / Let's...		
	10	Lesson 5	Tom is playing...	期 末 考 査	過去形規則動詞/ 不規則動詞 否定形/ 疑問形 疑問詞と be動詞、一般動詞 人称代名詞の目的格 過去形規則動詞/ 不規則動詞 否定形/ 疑問形
	11		Is Tom...? / Tom isn't...		
12	Lesson 6	Amy played... Did Amy play... Amy didn't play... Amy went~.			
	Lesson 7	My father was... My parents were I was watching...			
第 3 学 期	1	Lesson 7	My father was... My parents were I was watching...	学 年 末 考 査	過去形規則動詞/ 不規則動詞 否定形/ 疑問形 未来の文 疑問文 否定文
	2		Lesson 8		
	3		It will not be ... I am going to .../ Are you going to ?		

教科 保健体育

中学1年生対象

週3時間（体育89時間・保健16時間）

担当：小山幸広、小原愛可

1 科目のねらい

体育や保健の学習を通して、自己鍛錬の大切さや共に生きている仲間の大切さを学んでいきます。伸び伸びとさわやかで明るく豊かに行動できる基礎体力と健全な心を養うことが目的です。そのプロセスで「愛・知・反省・発展」が深まっていきます。

1年間を通じて、必ず、心も体もぐっと健全な中学1年生に近づいていることが実感できます。

2 学習内容と学び方

最初に、体力テストを実施します。自分の得意なところとがんばらなくてはいけないところを自分なりに明確にしてから一年間スタートします。体育の必要性も合わせて年度当初に学習するので、やる気十分でスタートできるはずです。その運動の特性にあった「ウォーミングアップ体操」を毎時間することで基礎的な動きを身に付けていくので、苦手としている運動も少しずつ、克服できるはずです。受験勉強に耐えられる体力と気力、精神力も身につきます。

授業の中には必ず、「愛・知・反省・発展」に関係する場面が含まれているのも大きな特徴です。体育を通して、力強く勇気のある人物を輩出する授業を目指します。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「新中学保健体育」学研

4 学習上の留意点

保健体育を楽しむには次の7点が必要です。

- ① 体育の動きや技をよく知ること
- ② 自分がどのような体力をしているかをしっかりと把握すること
- ③ どのようにになりたいのかをイメージすること
- ④ 仲間を応援したり励ましたりすること
- ⑤ 仲間ができたことを自分ができたかのように祝福すること
- ⑥ 多少きつい運動も前向きにがんばること
- ⑦ ケガをするまでがんばらないこと

以上の7点に気をつけて、保健体育にレッツ、トライ！

5 テストや評価の方法

体育

関心・意欲、思考・判断、技能、知識・理解の4観点で、運動の特性に応じた基準ごとの5段階評価を点数化し、その総合点で評価します。

保健

期末考査の点数と、平常点（授業への取り組みや態度、技能）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 中学1年 保健体育（男）

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点		
第 1 学 期	4	体カテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動やスポーツの多様性 ・ 創作ダンス ・ 短距離、リレー ・ ハードル走 ・ 走り幅跳び ・ クロール ・ 平泳ぎ ・ 背泳ぎ ・ バタフライ 	（中間 考査） 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の体力を明確に把握し、これからのイメージをもつ。 ・ 運動についての知識を深め、これからの人生に生かそうとする。 ・ 創造したことを体いっぱい表現したり、リズムに合わせて踊ったりして感情を伝える。 ・ 全力で走ったり、リズムカルに跳んだり、遠くへ跳んだりする。 ・ 泳ぐ体力と技能を高める。仲間から学ぶ姿勢も大切にする。 		
	5	体づくり運動 体育理論 ダンス					
	6	陸上運動					
	7	水泳					
	9	ボール運動 保健				（中間 考査） 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「走る」「蹴る」という動きを覚え、組織としての動きをしながら、攻撃したり守ったりできる。 ・ 自分の体の仕組みを知り、体の構造のすばらしさや神秘性を感じる。また、自分や他の人の体を大切にしようとする気持ちを深める。 ・ 器械運動に必要な体力と技能を高め、仲間に対して思いやりの言葉をかけたり、補助したりする。 ・ 「打つ」「捕る」「投げる」「走る」の動きを覚えて、チームプレーをすることの楽しさを学ぶ。 ・ マラソン記録会を実施し、長距離を走ることで、忍耐力を養う。 ・ 自分の体の仕組みを知り、体の構造のすばらしさや神秘性を深め、異性を尊ぶと共に、性とどのように向き合うか考える。 ・ 柔の道を通して、不惜身命の精神を学び、自己犠牲の精神を尊び、礼節を学ぶ。
	10	器械運動					
	11	ボール運動 陸上運動 保健					
12	武道						
第 3 学 期	1	保健	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりの良さを発見し、自分の行動に責任をもち、欲求やストレスへの対処できる。 ・ 「パスを出す」「シュートする」「つく」という動きを覚えて、組織的な動きをしながら、攻撃したり、守ったりできる。 			
	2	ボール運動					
	3						

授 業 の 計 画

科目名 中学1年 保健体育（女）

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	体力テスト		（中 間 考 査） 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力を明確に把握し、これからのイメージをもつ。 ・運動についての知識を深め、これからの人生に生かそうとする。 ・創造したことを体いっばいで表現したり、リズムに合わせて踊ったりして感情を伝える。 ・全力で走ったり、リズムカルに跳んだり、遠くへ跳んだりする。 ・「パスを出す」「シュートする」「つく」という動きを覚えて、組織的な動きをしながら、攻撃したり、守ったりできる。
		体づくり運動	・運動やスポーツの多様性		
	5	ダンス	・創作ダンス		
	6	陸上運動	・短距離、リレー ・ハードル走 ・走り幅跳び		
	7	ボール運動	・サッカー		
第 2 学 期	8	水泳	・クロール	（中 間 考 査） 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・泳ぐ体力と技能を高める。仲間から学ぶ姿勢も大切にする。 ・「打つ」「捕る」「投げる」「走る」の動きを覚えて、チームプレーをすることの楽しさを学ぶ。 ・自分の体の仕組みを知り、体の構造のすばらしさや神秘性を感じる。また、自分や他の人の体を大切にしようとする気持ちを深める。 ・器械運動に必要な体力と技能を高め、仲間に対して思いやりの言葉をかけたり、補助したりする。 ・マラソン記録会を実施し、長距離を走ることで、忍耐力を養う。 ・自分の体の仕組みを知り、体の構造のすばらしさや神秘性を深め、異性を尊ぶと共に、性とどのように向き合うか考える。 ・「パスを出す」「シュートする」「つく」という動きを覚えて、組織的な動きをしながら、攻撃したり、守ったりできる。
	9		・平泳ぎ ・背泳ぎ ・バタフライ		
	10	ボール運動	・ソフトボール		
	11	器械運動	・心身の機能の発達と心の健康 ・マット運動、跳び箱 ・長距離走		
	12	保健	・心身の機能の発達と心の健康		
		ボール運動	・バスケットボール		
第 3 学 期	1	保健	・心身の機能の発達と心の健康	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの良さを発見し、自分の行動に責任をもち、欲求やストレスへの対処できる。 ・柔の道を通して、不惜身命の精神を学び、自己犠牲の精神を尊び、礼節を学ぶ。
	2	武道	・柔道		
	3				

音楽

中学1年生
週1.5時間（53時間）
担当：宮地雅美

1 科目のねらい

合唱や楽器の演奏など、音楽活動への積極的参加によって、自ら表現することの大切さを学びます。また、仲間とアンサンブルをすることで協調性を育んだり、作品を創り上げる喜びと感動を共有したりします。各人の個性を尊重して、一人一人の音楽への興味と能力を向上させることをねらいとします。

鑑賞では、過去の偉人たちによって生み出された芸術作品に触れ、そのよさや、おもしろさを味わい、仲間と意見交流することで、音楽の聴き方を学びます。さまざまなジャンルのよい音楽に接することにより、幅広い知識や感性を磨いていきます。基本的な音楽教養を身に付けると同時に、芸術を魂の奥深くで感じ取ることができる感受性を育てます。

2 学習内容と学び方

教科書の他に、生徒実態や学園の行事に応じた楽曲も併用して学んでいきます。授業の計画においては、探究創造科の計画とリンクして進められるようにしました。

授業では、表現する活動が中心になります。歌唱表現、器楽演奏、創作活動など、スモールステップで、自信をもって学習できるように進めていきます。また、各自の努力や上達を実感できるように、練習の進め方やワークシートの工夫をします。鑑賞の授業においては、各自が知覚した内容を交流する場を設けることで、クリエイティブな視点で音楽を学べるようにします。

3 使用教材と授業の進め方

教科書「音楽のおくりもの」（教育出版）を使用します。その他、必要に応じて楽譜やワークシートを用意します。器楽では、アルトリコーダーを使用します。それぞれの学期において、歌や楽器による発表の場を設けます。

鑑賞では、グループやペアによる学習形態で行ないます。それぞれが感じたことを発表し合うことで、音楽の聴き方の幅を広げていきます。

4 学習上の留意点

授業では、仲間と共に音楽を奏することから、お互いの長所を認め合うことを大切にしていましましょう。合唱や合奏の実技においては、授業中の積極的参加はもとより、時間外の活動もどんどん行なうとよいでしょう。鑑賞の授業では、作品や作曲家に対して興味をもち、感じ取ったことを積極的に発表し合うことで、さまざまな聴き方を認め合い、高めあっていましましょう。

音楽の授業を通して、自分の新たな個性を発見し、自分らしい表現を磨いていくことも大切です。常に向上を求め、感性を研ぎ澄まして学習に取り組んでください。

5 テストや評価の方法

定期考査の点数と平常点（授業への取り組み、ワークシート、実技テスト、発表など）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 音楽

学期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	新しい仲間 とともに	「校歌」「応援歌」 「We'll find the way」 リズム・音符・記号	歌唱実技 テスト 期末考査	拍の流れによって明るい声で歌う 歌う姿勢、呼吸法などを身に付ける。 ソネットを手がかりに、曲想の 変化を感じ取る。 アルトリコーダーの基本奏法や運 指などを身に付ける。
	5	情景を想像 しよう	ヴィヴァルディ「春」		
	6	曲想や全体 の響きを感じ 取って	アルトリコーダー 「聖者の行進」など		
	7				
第 2 学 期	8	詩と音楽	シューベルト「魔王」	歌唱実技 テスト 期末考査	詩の内容と曲想との関わりを感じ 取る。 情景を思い浮かべながら、思いを こめて歌う。 曲想を感じ取って、速度や強弱の 変化を生かした表現を工夫して合 唱する。 アジア各地の音楽に触れ、そのよ さを味わう。
	9	日本の歌	「赤とんぼ」		
	10		合唱コンクールに向けて 『学年合唱曲』		
	11	仲間ととも に表情豊か に合唱しよ う	合唱コンクールに向け て 『クラス曲』		
	12	アジアの音 楽	アジアの諸民族の音楽		
第 3 学 期	1	日本の伝統 音楽	箏曲「六段の調べ」鑑賞 箏体験「さくらさくら」	器楽実技 テスト 学年末考 査	箏の基本的な奏法を身に付け、演 奏する。 箏の奏法の特徴を生かし、イメー ジ豊かに「さくらさくら」の前奏 を創作する。
	2		アルトリコーダーアン サンプル		
	3	創作	リズム創作 創作リズム発表会		

美術

中学1年生
週1.5時間（53時間）
担当：南聡

1 科目のねらい

この世界には至る所に美が存在しています。大自然や人の心の中に美しさというものがあります。その美しさを見つけ出すまなざし、美しさを感じ取れる心は精神の向上に必要なとても大切な力です。

また、人間には想像したものを創り出す力があります。心で感じ取った美しさを表現することを学びます。人間が持っているイメージする力（想像力）を元にして、自分と世界をつくる力（創造力）を身に付けていくことを目標としています。この力は人生を切りひらく力になるものです。

2 学習内容と学び方

「鑑賞」の学習と「表現」の学習により、見る力とつくる力を互いに高めます。

「鑑賞」においては、古代から現代まで東西の多様な芸術作品を見て知ること、様々な芸術文化を感性から味わいます。また、友人の作品からも、多様な個性を感じ取り、他人と共感する心を養います。

「表現」においては、多様な表現方法（スケッチ、デッサン、絵画、彫刻、コンピュータ）を経験し、テーマの元に、それらを組み合わせて工夫して表現し、表現の喜びを味わいます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書「美術1」（光村図書）、美術書、画集、詩集、デザイン関連書籍など
制作のポイント

- ① 資料を参考としてアイデアを自由になるべく多く出します。
- ② テーマに沿ったものを選んで、組み合わせます。
- ③ 計画的に丁寧に制作を進め、達成感を味わいます。
- ④ 発表し、友人からの感想をもらいます。

4 学習上の留意点

美術の学習は、美という観点から、自分と世界を深く知り、美的感性を養おうとするものです。表現で大切なものは、手際よく描く手先の器用さではありません。大切なのは、感動する素直な心です。絵を描くことを特別なことと思わず、感動する喜びを大事にして、温かく、人間らしい感性を養い、人生を美しく、力強く創造していきましょう。

5 テストや評価の方法

作品制作（発想、構成、完成度、センス、伝達力等）と平常点（鑑賞レポート、意欲、態度等）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 美術

学 期	月	単 元	内 容	テスト・範 囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	デザイン 「春の草花」	色相環を描く 三原色 色相・明度・彩度 筆の使い方 デザインしおりの制作 鉛筆の削り方 植物スケッチ カラー計画 彩色 鑑賞 名画の鑑賞	作品提出 レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・色料の三原色と光の三原色との違いを理解する。 ・基本的な色の属性と混色のしくみについて理解する。 ・丁寧に彩色する。 ・植物の形と色を観察し、生命の力を感じ取る。 ・全体と部分をスケッチする。 ・色の個性を知り、配色の組み合わせによって様々な色合いを見つける。 ・絵に込められた作者の思いとメッセージを感じ取る。
	5				
	6				
	7				
第 2 学 期	9	偉人カルタ の制作	偉人カルタの制作 偉人の選定 資料の収集 人物のイメージ 画像加工 色面構成（3色） トレース 彩色 カルタ作り 作品鑑賞 名画の鑑賞	作品提出 レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・偉人の名前を書き出し、担当を決め、クラスが協力してカルタをつくる。 ・人物と肖像について情報を集める。 ・パソコンを活用し、画像を白黒の2階調にして、明度を考慮したカラー計画を立てる。 ・トレースして絵具で彩色する。 ・描いた作品を取りこみ、パソコンを活用して、絵札と読み札をつくる。 ・全員で協力してカルタを制作する。
	10				
	11				
	12				
第 3 学 期	1	だるま	だるまの制作 一年の願い アイデアスケッチ 言葉の構成 資料の収集 デザイン（パソコン） 彩色 鑑賞	作品提出	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の発展と自分の願いの達成を祈念してデザインを考案する。 ・願いをイメージして、アイデアスケッチする。 ・パソコンを活用して、絵と文字を構成する。 ・願いを込めて丁寧に彩色する。 ・友人の作品を鑑賞し、それぞれの個性と言葉の力を感じ取る。
	2				
	3				

1 科目のねらい

遙かな過去より現在まで数多くの偉人たちの発明と創意工夫により、現在の文明が創られてきました。世界の経済と産業の発展を支える技術力とものづくりの力を知り、将来、理想的な未来社会建設の原動力となる創造力を養います。エネルギー変換や加工技術の知識と技能を習得し、ものづくりの喜びを味わいながら、発展的に創意工夫する能力を身に付けます。

2 学習内容と学び方

- ① ものづくりの実習を通して、目的や用途に即した機能と構造、加工法や工夫の仕方について学習します。
- ② 植物の栽培を通し、生活や社会を支える生物の育成の技術を学習します。
- ③ 身の回りのエネルギーを学習し、生活と環境の関わりを理解します。
- ④ 情報機器や素材を活用して情報を処理し、自分の意見やアイデアを発表し、他人からの感想をもらいます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「新 技術・家庭（技術分野）」教育図書

- ① ものづくりの経験を通して、つくることの喜びと達成感を味わいます。
- ② 情報処理、情報整理の力を学習に役立てます。
- ③ 発表のスキルを身に付けて、自由な発想力を磨きます。
- ④ 友人の作品や発表を見て、見方や考え方を広げます。

4 学習上の留意点

技術の学習は、つくることを通して、生活や人生の価値を高めてゆこうとするものです。学習においては、「何だろう？」という疑問や好奇心を大事にしてください。一つひとつ自分で調べたり、自分なりに考え、工夫したりすることで、分かる喜び、つくる喜びが生まれ、実行力や実践力が身につきます。知識を集めるだけでなく、活用して、自分の夢や目標実現に役立てて行きましょう。

5 テストや評価の方法

作品（技能、理解度、観点、構成、完成度、応用力、伝達力等）と平常点（レポート、意欲、態度等）、定期テストを総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 技術

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	情報機器の 活用	キーボード操作演習 文章入力 文書の作成 パワーポイントの作 成	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラインドタッチの習得を目指す ・ 文書作成ソフトの機能を活用する。 ・ 画像データの加工方法を理解する。 ・ 文字の書体やデザインが与える効果について理解する。 ・ コンピュータの構成を理解する。 ・ デジタル化の方法を知る。
	5				
	6	情報モラル	インターネットに潜む 危険性		
	7				
第 2 学 期	8	材料と加工	素材の特性 加工方法 強度を高める構造	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの製品の構成材料や、加工法を調べる。身近な材料での制作を通して強度を高める方法を学ぶ。 ・ 素材の特性と加工法を理解する。 ・ 機能と構造を理解して、目的と用途に合ったデザインを考える。
	9				
	10	木材加工	本棚CDラック制作 素材の特性 目的と用途 デザインの考案 設計図作成 加工、組み立て		
	11				
12					
第 3 学 期	1	木材加工	木材加工 加工、組み立て	作 品 提 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工具の安全な使い方に留意する。 ・ 実際に使用してみる。
	2				
	3				

1 科目のねらい

「自立」と「共生」を目指します

衣食住の生活は、明日のエネルギーをつくる重要な活動です。家庭科では、生活者としての自覚を持ち、衣食住、消費生活の知識や技術、実践する力をつけ、健康で自分らしい生活を自らつくる力をつけていきます。

そして、生活の中で困ったことやつらいことがあったとき、それらに真剣に向き合い、解決する力を身につけることを目指しています。そのためには、自分ができることを増やし、まわりの人々と協力することが大切です。中学生として、よりよい生活をつくっていくために、「自立」と「共生」を目指して学びます。

2 学習内容と学び方

家庭科の学習で大切なことは、「生活から始まって、生活に返す」。すなわち、生活の中から課題を見つけ、解決していくという過程を繰り返し、よりよい生活をつくっていくことです。

具体的には、調理実習を通して、家庭でも実践できる基本的な技術や食品の栄養など、年間を通して食生活の学習を行います。衣生活では、衣服の手入れやミシン、裁縫の技術など生活に欠かすことのできない内容を学びます。消費生活では、商品の適切な選び方や購入、トラブルに合った際の対応の仕方など、実際の生活と関連した内容を学習します。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「新技術・家庭（家庭分野）」教育図書

4 学習上の留意点

- (1) 楽しい学習にするために、グループ学習では、お互いに協力しあい助け合いながら学びましょう。
- (2) 技術的な学習を生活に生かすためには、繰り返し学習が大切です。
- (3) 生活を振り返る時には、自分自身をしっかりと見つめましょう。
- (4) 作品の製作を進めたいときには、家庭科室をどんどん活用しましょう。
- (5) 実習の際、刃物類、ガス、電気機器などを使用するため、安全に充分留意し、安全な行動を進んでできるようにしましょう。

5 テストや評価の方法

- (1) 関心・意欲・態度
作業や実習計画案への積極性、授業への取り組み方、レポートや実践記録、自己評価などで評価します。
- (2) 思考・判断力
定期テストやレポートなどで評価します。
- (3) 技術
作品の製作や実習を通して基本的な技術が身についたか、学習過程や作品、実習レポートなどで評価します。
- (4) 知識・理解
定期テスト、学習プリント、レポートなどで評価します。

授 業 の 計 画

科目名 家庭

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4 5 6 7	ガイダンス 自立生活の 「さしすせそ 」 ①裁縫 ②収納 ③炊事 ④洗濯 ⑤掃除	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の学習計画 ・家庭科室の使い方 ①裁縫—ボタン、スナップ付け ②収納—部屋の収納の仕方 ③炊事—簡単なおやつ作り ④洗濯—洗濯の仕方としみ抜きの方法 ⑤掃除—健康で安全な部屋作り（計画・実習） 	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・生活力向上のための知識・スキルを磨く。 ・衣服の補修の仕方や手入れの方法を理解し、寮生活に活用する。 ・基本的な収納・洗濯・掃除の仕方を理解し、寮で実践する。 ・計量器具や様々な用具の使い方、火加減の調整の方法、片付けの仕方を理解する。
第 2 学 期	9 10 11 12	よりよい衣生活を 目指して 日常食の調理	<ul style="list-style-type: none"> ・布の性質 ・布を用いた製作 （計画・実習・反省・評価） ・中学生に必要な栄養 ・栄養素の種類と働き ・食品に含まれる栄養素 ・6つの食品群 ・調理実習 おにぎりと味噌汁 （計画・実践・評価・反省） 	期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・布の組織構造を実習し、日常着と比較する。 ・ミシンの基本的な縫い方を理解する。 ・実習計画を立て、時間の有効的な使い方を実践する。 ・中学生に必要な栄養の特徴について考える。 ・食品に含まれる栄養素の種類とはたらきについて理解する。 ・安全で能率的な調理をするための方法や衛生的に作業をするための注意点を理解し、協力して作業を進める。 ・ご飯の炊き方、味噌汁のだしの取り方を理解する。
第 3 学 期	1 2 3	献立作りと食品 の選択、調理	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスの取れた食生活 ・生鮮食品と加工食品 ・食材を生かした調理—魚料理 （計画・実践・評価・反省） 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品や加工食品の特徴と種類を理解する。また、食品の表示を理解し、安全な食品選びや保存の仕方を考える。 ・基本的な調理ができる技術を身につける。 ・魚の特徴や扱い方を知る。 ・食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて考える。 ・安全で能率的な調理をするための方法や衛生的に作業をするための注意点を理解し、協力して作業を進める。 ・食事のマナーを知る。

探究創造 探究創造 I

中学1年生対象

週1.5時間

担当：中学1年学年団教員 探究創造科(菊地)他

1 科目のねらい

テーマ：偉人の生き方から人生のモデルを発見する

探究創造科とは、人類の未来を創造するために、自分はどの分野でどんな問題解決と限界突破による価値創造を通して貢献できるかを探究するための学科です。まず、中1でどんな偉人に興味を持つかを通して自分の強みと興味の方向性を探り、中2で日本を知り、中3で世界を知り、高1で世界が今直面しているテーマを知り、テーマ研究と問題解決の方法を学び、高2で自分の最も興味のある分野における未来創造の可能性を探究していきます。

中学1年生では、過去の「偉人を知る」ことが大切です。各分野の十人の偉人の生き方を授業で学習し、個人及びグループで調べ学習を実施します。夏休み以降、自分の興味を持った偉人について、個人でさらに深く研究を行い、クラスでの発表を通してロール（役割）モデルとしての偉人の生涯を深く心に刻み込んでいきます。そして、他の生徒の発表からも学び、様々な偉人についての知識を深め、自分の使命を考えるための糧とします。

2 学習内容と学び方

○探究創造活動

- ・偉人学習をおこないます。偉人の生涯について、人類の幸福に貢献してきた観点から参加型授業を実施します。
- ・上記の偉人についての講義を受けて毎回レポートにまとめます。夏休み以降は、偉人のエピソードを柱にした、偉人についてすごいと思った点、感動した点などを中心に発表できるように指導し、クラス内発表を目指します。

○成果発表

- ・各クラスにて、偉人のエピソードについてのプレゼンテーションを2学期以降実施します。

3 使用教材と授業の進め方

○参加型授業

- 使用教材（偉人伝、ヤングブッダ、大川隆法霊言全集、偉人の映画・資料映像など）
- 3学期(1月予定)にプレゼン発表を行います。

4 学習上の留意点

積極的に取り組むことで、偉人の生涯を深く知ることができ、他者に貢献する喜びを感じることができます。さらに、学習への興味・関心が高まり、勉強の本当の意味を知ることによって、深く勉強する喜びが高まります。加えて、「感動」「愛」にもっと重点を置き、感動する偉人の話、感動する偉人の動画を中心に学びます。

5 テストや評価の方法

評価の資料は、①発表・報告書（レポート）、②学習態度、③自己評価及び相互評価の総合評価で行います。

授 業 の 計 画

科目名 探究創造 I

学期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学期	4	オリエンテーション	・学園オリエンテーション		・探究創造の目的を知る。
	5	偉人学習	偉人についての講義 (7回前後予定) 二宮尊徳 吉田松陰 坂本龍馬 他	レポート (各偉人)	偉人の生涯を知り、光の天使の活躍等についての探究を深め、考えるための知識と教養を身に付ける。
	6				
	7	夏課題準備			個人で調べる偉人を決め夏休み課題の準備をする。
第 2 学期	8	夏課題発表	発表	発表内容・態度	発表
	9	個人研究 調査 スライド作成	個人研究 偉人のエピソード調査 発表原稿と発表用のスライド作成	取り組みの態度 (調査用ノート等)	個人研究の偉人を決め、人類に貢献した生涯を、深く探究する。
	10				
	11				発表の仕方。
12	発表練習 発表の推敲	発表練習	発表内容・態度		
第 3 学期	1	探究発表会準備	偉人からの学びを自分の人生に生かす。	発表内容・態度	人前で堂々と発表する。
	2	発表会			
	3	振り返り 教祖伝探究	教祖伝を探究し 次の学年に向けての志を立てる		